

リスクマネジメントの一端を担うaudit®



プライマリーファーマシー様

神奈川県川崎市

面薬局

駅前立地

地域密着

調剤ミス「0」を目指して

おしゃれな沿線として開線当時から人気の高い東急田園都市線。かつてドラマ『金曜日の妻たちへ』の撮影が行われたことでも注目を集めた。渋谷から20分の宮前平駅は都心へのアクセスもよいため、住宅地としても人気の高い場所だ。駅から徒歩2分のところに「プライマリーファーマシー（山村 真一 代表取締役）」はある。

昭和55年、プライマリーファーマシーはこの地に開局した。まだまだ院内処方が主流の当時、医院横に店舗を構える第2薬局が問題視されていた中、純粋に独立した面対応薬局の開局は珍しかった。同薬局の周辺には5～6軒の医院・クリニックがあるが、処方箋の応需はこれに留まらず約180機関にもものぼる。在庫は約2100薬品を数え、ジェネリックや規格違いも多く取り揃えている。同薬局にはパートタイマーを含めスタッフ15名が在籍しており、1日約180枚の処方箋を扱っている。

「リスクマネジメントは薬局経営の基盤。リスクを身近に感じ、効果的な対策を講じることが重要」と山村氏。「調剤のリスクを可能な限り低



受付と投薬カウンター

減したい」とする同氏はいち早く調剤監査システムに着目し導入した。同薬局の薬剤師はauditの監査精度の高さに信頼をおいている。薬剤師による監査後auditを使用するが、「人間の監査を何重にしてもauditで間違いを見つけることがある」と早乙女氏（薬局長）は語る。導入によって安心して業務に臨めるようになったという。矢谷氏（薬剤師）は「スピーディに薬のチェックができるうえ、安心感が得られる」と語る。水野氏（薬剤師）は「履歴確認をよくすることで毎日安心して業務を終えられるという。

「類似した処方箋が続き、きちんと出したか不安になるとき」にも必ずauditの履歴を確認し、自信を持って次の業務へ臨むことができるようになったそうだ。



audit を操作するスタッフ

薬局経営のテーマを2点挙げる山村氏。1点目は患者様へ薬の適正使用を指導し投薬後のフォローを行うこと。2点目は薬局内のミスを「0」に近づけるため具体策を実行することだ。2点目についてはauditへ期待する部分も大きいという。薬局・薬剤師に求められる業務が高度化する昨今、「根性論で薬局経営を続けるのはあまりにリスク」と同氏は語気を強める。「人間の監査だけでミスを『0』にすることはできない。進化を続ける監査システムの導入は

リスクマネジメントとして効果的」と続ける。たったひとつのミスが薬局経営を脅かすという意識を持ち、ミスを「0」にするため対策をとることは重要であるという。さらに、患者様に来てもらえる薬局であり続けるためには、「従来の業務にプラスして新たなサービスを積み重ねていく必要がある」と語る。薬局の在り方を模索し挑戦し続ける同薬局にとってauditは「リスクマネジメントの一端を担う重要な存在だ」と同氏は最後に語った。



調剤の様子

プライマリーファーマシーは患者様にとって頼りになる存在だ。薬の相談だけでなく、居るだけで癒しが感じられる空間を提供している。患者様がまた来たくなる薬局を追求し、これからも進化し続ける。



プライマリーファーマシー
代表取締役 山村 真一様（薬剤師）

DAIFUKU

株式会社ダイフク

FA&DA事業部

メディカルソリューショングループ

〒105-0014 東京都港区芝2-13-4 住友不動産芝ビル4号館2F

TEL: (03)3456-2237

<http://www.audit-pr.daifuku.jp>